

匠

TakumiMap News Letter

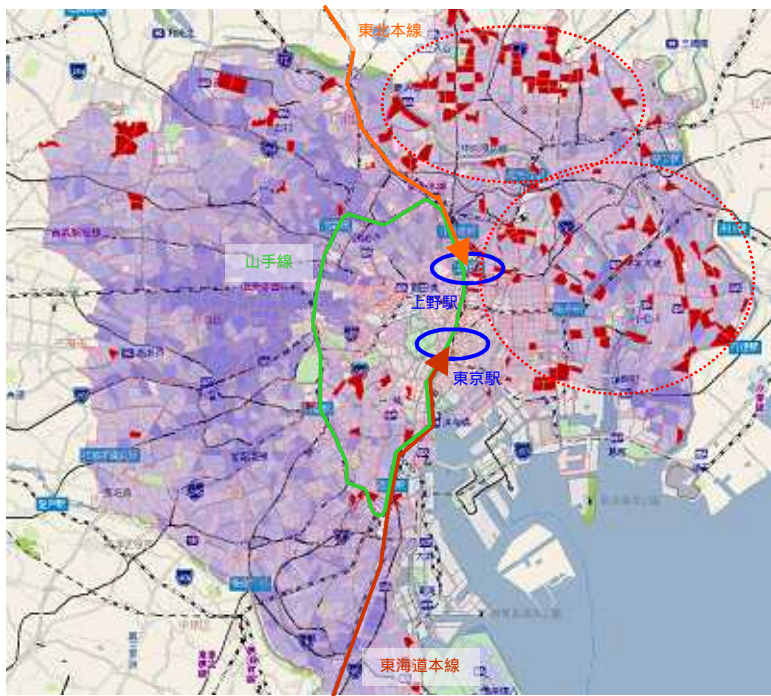
地図情報で、御社に眠る顧客データを金の卵に換える新世代マーケティングGIS

団塊世代比率の多いエリアから歴史を探る

ところで皆さん、東京って日本の首都なんですか。何をいさら！ということなかれ、法律上では「日本の首都＝東京」とは定められているわけではないんですね。なので「歴史的経緯からすれば日本の首都は江戸時代の都である京都と東京の両方だ」というダブル首都論を主張する学者さんもいらっしゃるくらいなのです。もともと江戸を東京にしようといったのは、かの明治の元勳「大久保利通」、つまり先頃就任した麻生太郎内閣総理大臣の高祖父だったわけです。明治元年の「江戸ヲ称シテ東京ト為スノ詔書」において江戸を東京という名前に改称したものの「首都にする」とは書かれていません。その後“帝都”と呼ばれた東京はまさにデファクトスタンダードのごとく日本の首都とみなされるようになるわけです。まあ、そのような話はさておき、今回のTakumiMapニュースレターではTakumiMapを駆使して、この「東京」という街の歴史的な成り立ちを探っていくことにしましょう。

集団上京で集中した東部エリアには今でも団塊世代比率が上位

23区東部に集中する“団塊世代比率上位×賃貸住宅世帯上位”のエリア



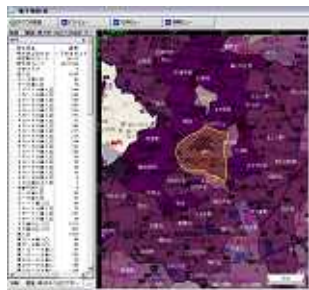
皆さんご存知の通り東京という街は東京のどこにもありません（駅名やら西東京市ならありますが）。一般的な解釈としては東京特別区である23区を東京と呼ぶ説でしょうか。しかしこの23区となったのは実は戦後のこと。1889年に東京市が発足したときはたったの15区、その後20区になったり35区になったりした後に、戦後すぐに22区となり、その後に板橋区から練馬区が分かれて23区となった経緯があります。

もともと東京は江戸城の東側、日本橋を中心に栄えた街です。その昔は副都心の新宿も甲州街道の単なる「宿」の一つ、渋谷や世田谷や四谷や日比谷は単なる「谷」だった訳で、千代田、五反田、蒲田は「田んぼ」、JR山手線とは文字通り「山の手（方）」を走る電車だったわけです。

23区が成立したのと前後して、朝鮮戦争の特需に沸く東京都心部の工場への就職のため地方から大量上京したのが、いわゆる「団塊世代」。映画「3丁目の夕日」の舞台もそうでしたが、彼らの多くは23区東部の工場周辺に散在していた木造賃貸アパートで生活していた訳です。

TakumiMapをみると、少なくともはなりませんがその歴史を物語る賃貸住宅の集積がいくつか残っていますね。

東京の国勢調査(町丁目)は年間18000円から。データの“利用”でコスト・手間いらず！

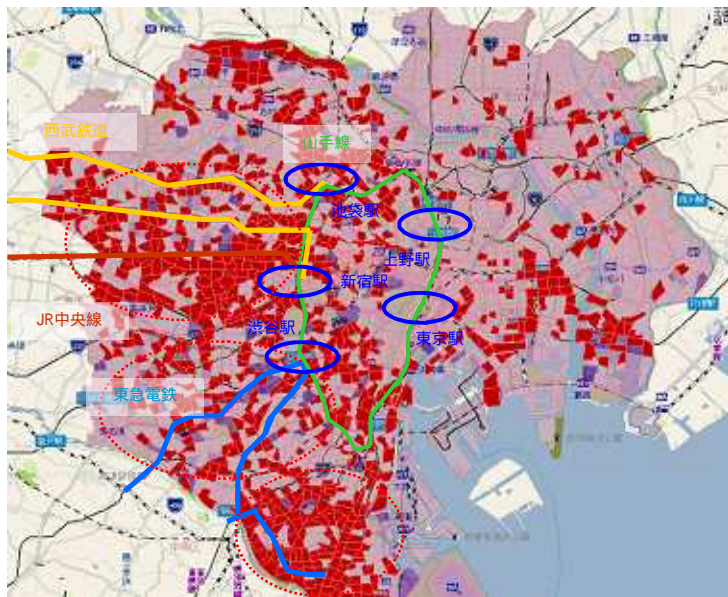


さてTakumiMapはマーケティングGISと呼ばれていますが、システムとしてはいわゆる地理情報システム（GIS）。地図という二次元情報をみることが目的のシステムです。しかしマーケティングに重要なのは時系列でデータをみること。TakumiMapで過去のデータを時系列で見っていくためには過去のデータを買わなきゃならないのでしょうか？

ところがどっこいTakumiMapの最大の特徴は、国勢調査・商業統計データなどを格安で“利用”できることなんですね。ちなみに東京の国勢調査・町丁目データの利用権は年間なんと18000円。これまで敷居の高かったGISを万人の手に届くようにした革新的なソフトウェアこそがTakumiMapなんです。（詳しくは匠技研ホームページをご覧ください）

鉄道とデベロッパーによって開かれた23区西部エリアは持家比率が高い

23区西部の鉄道沿線に広がる「団塊世代比率上位×持ち家世帯上位」エリア



さて、戦後の日本は1960年代から高度成長期を迎えたわけですが、当時は都心下町の木賃アパートに住んでいた団塊世代の上京者たちは経済的余裕をもつようになったのを機会に郊外へとマイホームを求めて動き出します。

よく東京の街の拡大の歴史をみるときに「山 学園 台・平」という言い方をします。最初は、代官山などの山、次に大泉学園などの学園、その次に南平台などの台というように町名の順番に開かれていったという意味です。まさに東京の郊外は、宅地を相次いで開発していったデベロッパーによって形作られたといっても過言ではないでしょう。その開発を主導したのは鉄道会社。GO! WEST! と言わんばかりに戦前、関東大震災の被災者が新天地を求めて拓かれていったのがJR中央線沿線。そして戦後、特に力を持ったのが東急電鉄と西武鉄道。両社はこぞってマイホームを求める団塊世代のために沿線の宅地開発を進めました。地図をみると中央線、東急、西武鉄道沿線の団塊世帯の持ち家比率の高さにその痕跡が残っていますね。

「地図のみで見ることなかれ！」 時間軸でみるマーケティングの重要性

高度成長期における丸の内エリアの再開発計画のイメージ図



今や戦後65年、オイルショックから30余年を経て、かつての東京の歴史的な面影を知る遺構はすいぶんと少なくなりました。しかしそんなときにふとTakumiMapを眺めると、それらの歴史的な背景がはっきりと浮かび上がることがあります。その昔、とある学者が「マーケティングとは史学に端を発する」と語ったことがあります。市場は平面でみることなく時間軸を伴ってみるべし。

東京でビジネスを行う上で、東京の歴史に想いを馳せることはとても重要であり、実はTakumiMapこそはその格好の情報源となるはずです。ビジネスの成功に向けて市場を時間軸で追う！はたまたご自身の歴史教養の足しにぜひTakumiMapをお試しあれ！

TakumiMapの機能をそのままに！ 事業戦略をサポート！

「数字は重要、ただ数字だけではわかりにくい」経営者様のこのような悩みにこたえるのがこのサービス。匠技研はこれまで培った地図情報システムと、それを軸にした多くのBtoB・BtoCコンサルティングノウハウを糧として、御社の課題に応えます。



地図情報で“見える”マーケティングへ

株式会社匠技研®

本ニュースレター、並びに商品・サービス内容に関するお問い合わせは

電話 03-5765-5343

FAX 03-5765-5342

Eメール customer@takugi.com

株式会社 匠技研 営業担当宛までどうぞ

〒105-0022 東京都港区海岸2-1-23 ベイサイド5階